

千里キリスト教会 主日礼拝説教

日 時 2017年12月17日

聖書箇所 イザヤ 53:1-6

説教主題 「人に見捨てられた神の御子」

説教者 徳本 篤

## 序文)

クリスマスを目前にして浮かれた気分になりがちなの頃ですが、今日はイザヤ 53 章前半部分をパウロの目線で読んでみたいと思います。なぜならこの聖書箇所には、パウロが教会を迫害した理由と、後にキリスト者に回心した本当の理由が明らかにされていると思うからです。パウロは自分のことを「罪人のかしら」と告白していますが、そのことからクリスマス本来のあり方について明らかにしたいと思います。

パウロの出身地はトルコ共和国中南部にあるタルソという地方都市でした。AD66年にローマ征服にタルソの住民が貢献したことでローマ皇帝は全住民にローマ市民権を授与しました。パウロの父もその時からローマ市民権がありました。パウロは故郷を離れてエルサレムに移り住み、当時最も著名な律法の教師ガマリエルのもとでユダヤの律法とパリサイ人の精神を学びました。ガマリエルは厳しい教師であるばかりでなく、温厚な人物でした。ペテロたちが宗教裁判を受けた時に彼は使徒たちを弁護しました。(使徒 5:34) パウロがその恩師の教えに背いて過激な迫害者に変貌したのはなぜでしょうか。ローマ 1:28-32 で彼自身が罪のリストに「ねたみと殺意と争い・・・」を取り上げています。イエスとイエスの教えに従う同胞ユダヤ人に対する激しい「ねたみと殺意」が、その動機だったのではないのでしょうか。

パウロの「ねたみと殺意」の背景には当時のユダヤ人社会の極度の伝統主義と、強い差別意識が考えられます。ヨハネ 1:46 に書かれているように、エルサレム出身のユダヤ人ナタナエルは、イエスがガリラヤ地方の出であることを聞いた途端に、「ナザレから何の良いものが出るだろう。」と軽蔑する態度をあらわにしています。パウロはユダヤの田舎どころか、ユダヤ国外に住む離散したユダヤ人の子で、異邦人の地方都市タルソの出身でした。使徒 26:14 に、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ」。イエスがパウロに言われた言葉が書かれています。とげのついた棒とは、パウロの心を深く傷つけていた劣等感をあらわします。彼がどんなに優秀な学生であっても、人一倍熱心なパリサイ主義者であっても、エルサレム出身のユダヤ人は地方出身の彼を差別扱いしていたに違いありません。自分を見下すユダヤ人たちの関心を引くような手柄を立てて、自分の存在を認めさせたいという欲求の高まりは、恩師ガマリエルの教えに背いてでも、彼を過激な迫害者へと駆り立てたのではないのでしょうか。イエスはパウロのその思いを読み取られ、理解を示してくださったのです。

## 本文)

あらためて今日のイザヤ 53:1-6 を読んでみましょう。そこには人々が神の御子を見捨てた理由について預言されています。3 節の「彼を尊ばなかった」chashab とは、計算に合わない。予想していたものと違う。ことをあらわします。さらにその理由についても明らかに書かれています。

第一、神の御子が育った環境が気に入らない。

2 節の「育ち：alah」とは、育った場所や環境のこと。「若枝：yowneq」とは、切株から芽を出したばかりの弱々しい枝のこと。「根：shereshe」とは、人々に踏まれて土を這うように醜く曲がった木の根のこと。出身地がガリラヤのナザレという村だったことを理由に、エルサレムに住むユダヤ人たちは神の御子イエスに対する強い偏見による差別を受けられました。(ヨハネ 1:46)

第二、神の御子の家族や生活ぶりが気に入らない。

2 節の「見ばえ : mareh」とは、人々に支持される風貌と表情のこと。

御子イエスが故郷のナザレに久しぶりに帰られたときに、「この人は大工ではありませんか。マリヤの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではありませんか。その妹たちも、私たちとここに住んでいるではありませんか。」(マルコ 6:3) と書かれているように人々の強い偏見による差別を受けられました。

第三、神の御子の教えや行動が気に入らない。

「さげすみ : bazah」とは、あざ笑う。傍に居ることさえ忌み嫌うこと。

御子イエスが捕らえられ十字架にかけられた時、道を行く人々もその姿を見てイエスをののしり、祭司長や長老、律法学者たちも「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから」と言って、大勢の前でイエスをあざけり、ののしりました。(マタイ 27:39-44)

第四、神の御子の十字架刑を当然の成り行きだと思った。

4 節の「私たちは思った : chashab」ちは、3 節の尊ばなかったと同じことばで、計算した通り、予想した通りだったことをあらわします。「神に打たれた : nakah」とは、神のさばきによって処刑され殺されたことをあらわします。御子に対する自分たちの高慢な罪を神のさばきだと正当化してしまう人間の極めて悪意に満ちた考えが描かれています。

イザヤ 53 章 (1-6) は神の御子の謙虚で従順なお姿と対象的な人の罪深さに対する驚きと悲しみの預言です。使徒 9 章 (4-5) で、イエスはパウロに向かって言われました。「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と尋ねると、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」という答えがありました。

その後、パウロがイエスについて理解したことが、ピリピ 2:6-11 に書かれています。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」

この内容は、イザヤ 53 章をパウロ自身が理解し、彼の言葉で書き直したようになっています。

### 適用と応答)

人の罪とは御子イエスを信じないことです。(ヨハネ 16:9) 神の御子であるイエスのお姿を自分の目で真剣に見ようとしない高慢です。(ヨハネ 9:39~41) ですから、人にとって最大の不幸はイエスを知らないことであり、最大の幸せはイエスに知られていることです。

すでに罪赦された私たちですが、今日あらためて謙遜と従順な姿をして私たちに所に降って来られた神の御子を、王の王、主の主、と告白し、へりくだる思いで礼拝をささげましょう。